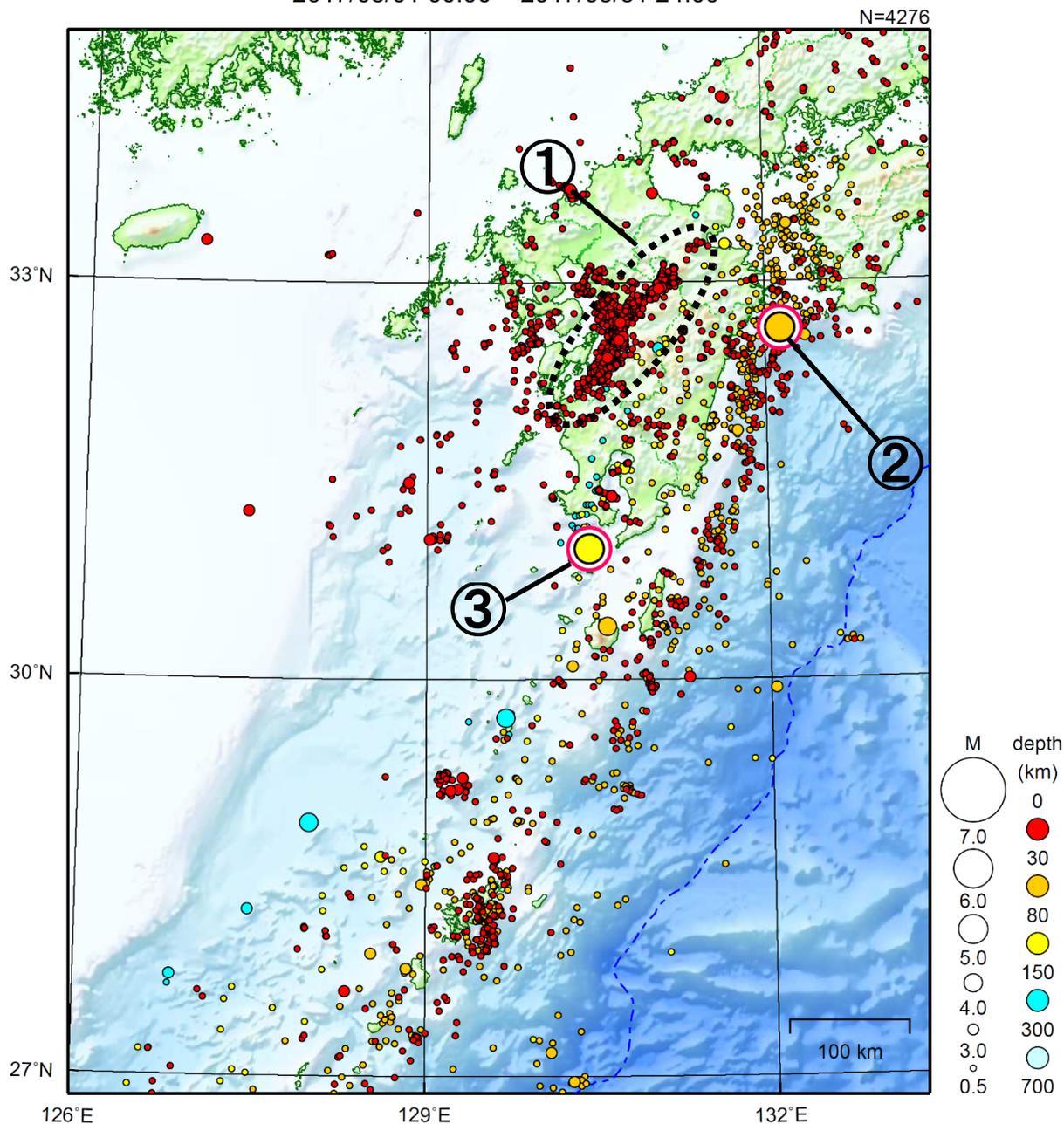


# 九州地方

2017/03/01 00:00 ~ 2017/03/31 24:00



地形データは日本海洋データセンターのJ-EGG500、米国地質調査所のGTOP030、及び米国国立地球物理データセンターのETOP02v2を使用

- ① 「平成 28 年(2016 年)熊本地震」の活動域では、今期間に震度 4 以上を観測する地震は発生しなかった。
- ② 3 月 2 日に日向灘で M5.3 の地震(最大震度 4)が発生した。
- ③ 3 月 12 日に種子島近海で M5.1 の地震(最大震度 3)が発生した。

気象庁はこの地震に対して[薩摩半島西方沖]で情報発表した。

[上述の地震は M6.0 以上または最大震度 4 以上、陸域で M4.5 以上かつ最大震度 3 以上、海域で M5.0 以上かつ最大震度 3 以上、その他、注目すべき活動のいずれかに該当する地震。]

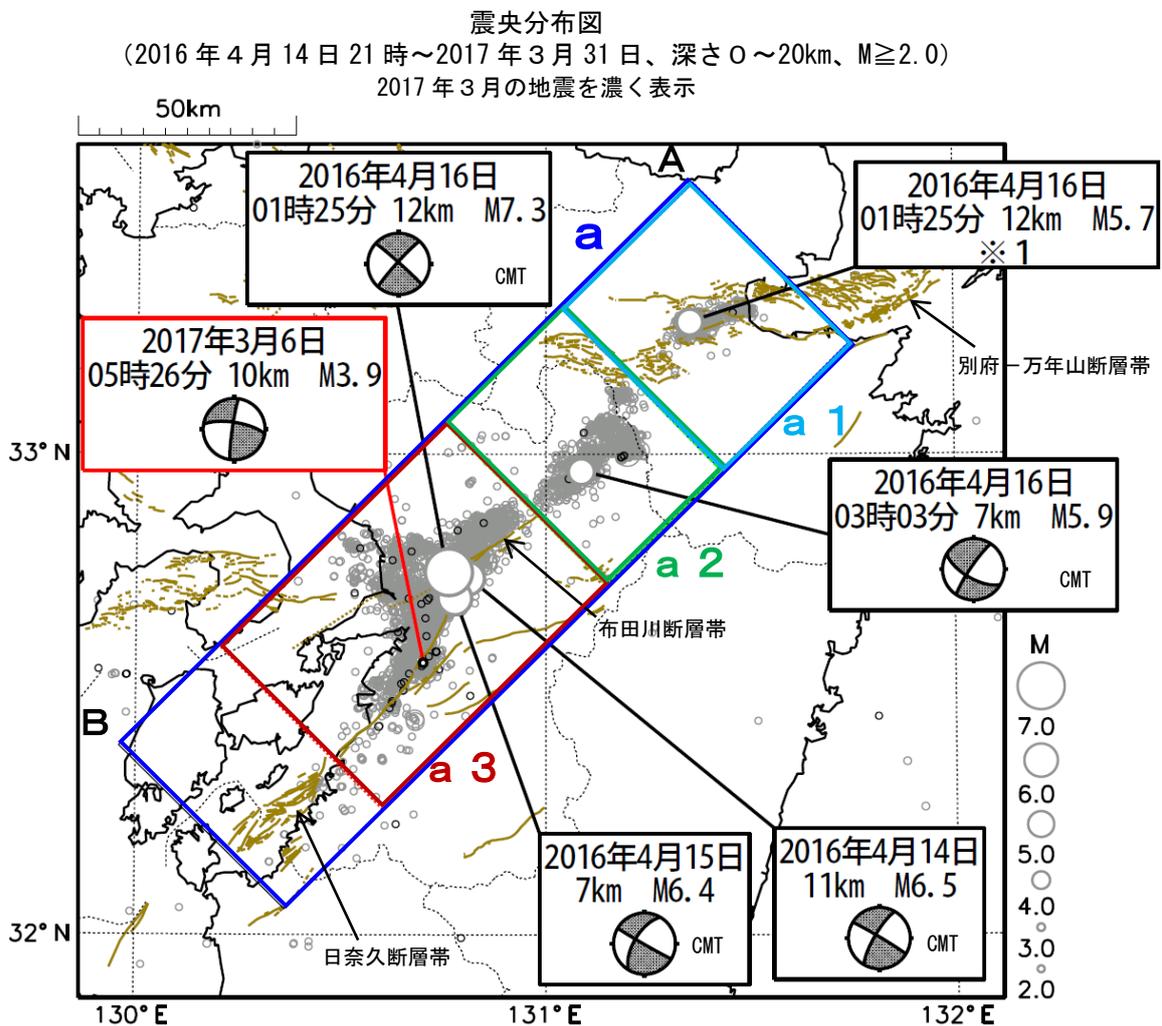
# 「平成 28 年（2016 年）熊本地震」

3月6日05時26分に、熊本県熊本地方でM3.9の地震（最大震度3、深さ10km）が発生した。発震機構は、北西－南東方向に張力軸を持つ横ずれ断層型である。

熊本県熊本地方（領域a3）及び阿蘇地方（領域a2）における「平成28年（2016年）熊本地震」の一連の地震活動は、全体として引き続き減衰しつつも、活動は継続している。大分県中部（領域a1）の活動は低下した。

3月中に震度1以上を観測した地震は25回（最大震度3：1回、最大震度2：9回、最大震度1：15回）発生した。

今回の一連の地震活動により、死者225人、負傷者2,747人、住家全壊8,689棟などの被害が発生した（3月31日現在、総務省消防庁による）。

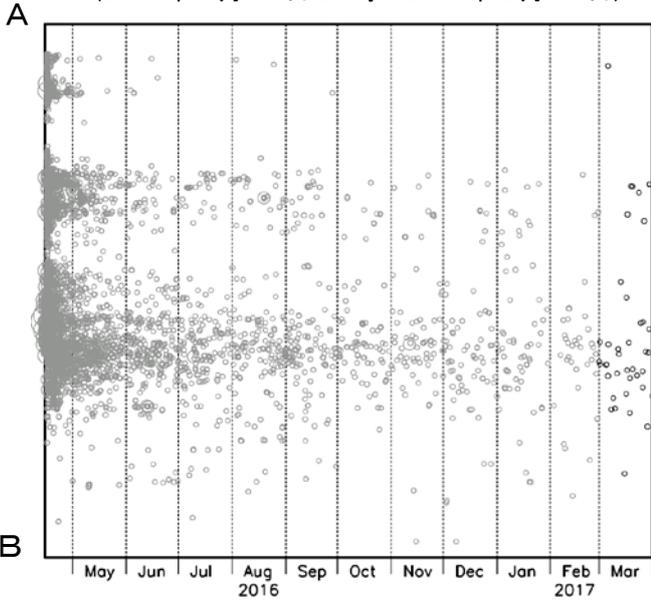


図中の細線は地震調査研究推進本部の長期評価による活断層を示す

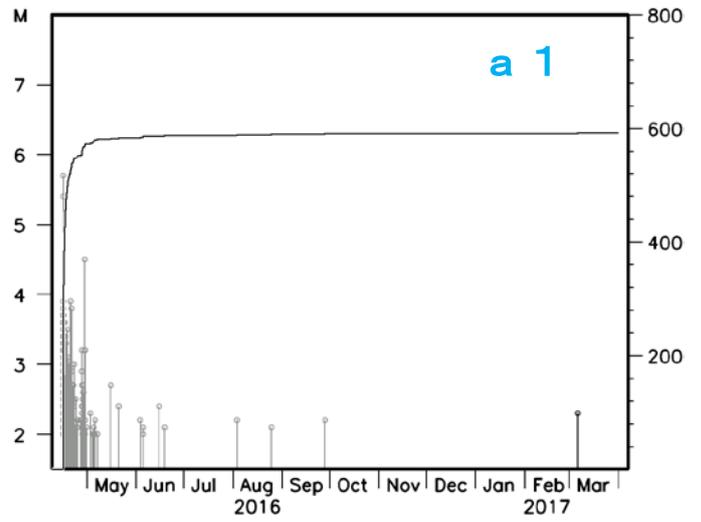
M6.0以上の地震と各領域で最大規模の地震（3月の地震は最大規模の地震）に吹き出しをつけている。

※1 M7.3の地震の発生直後に発生したものであり、Mの値は参考値。

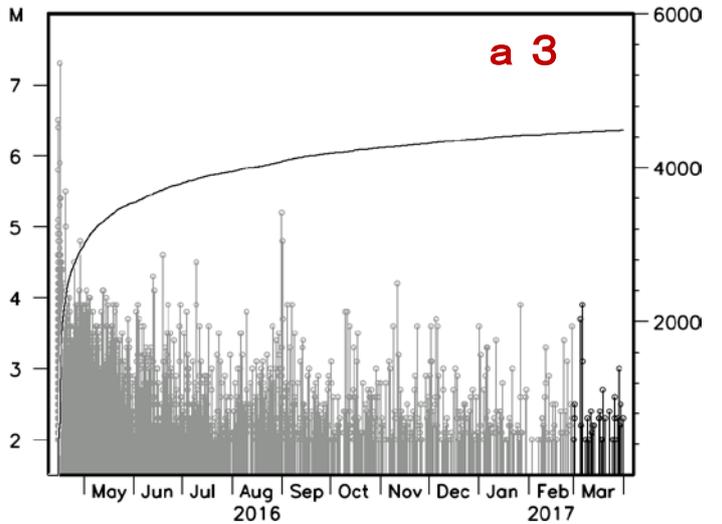
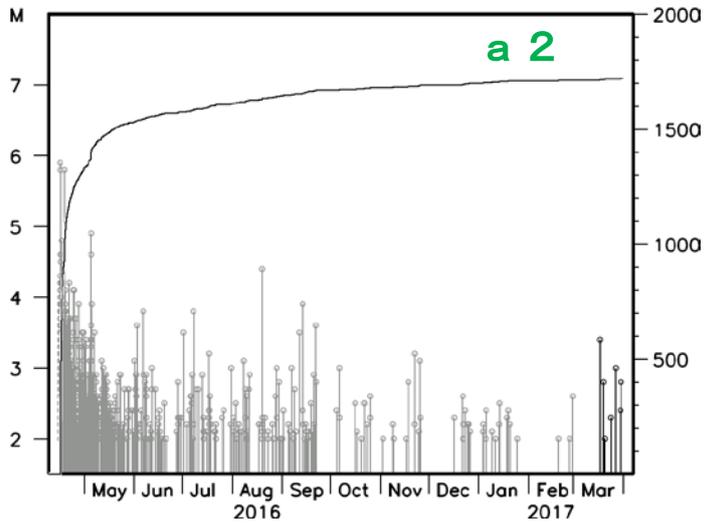
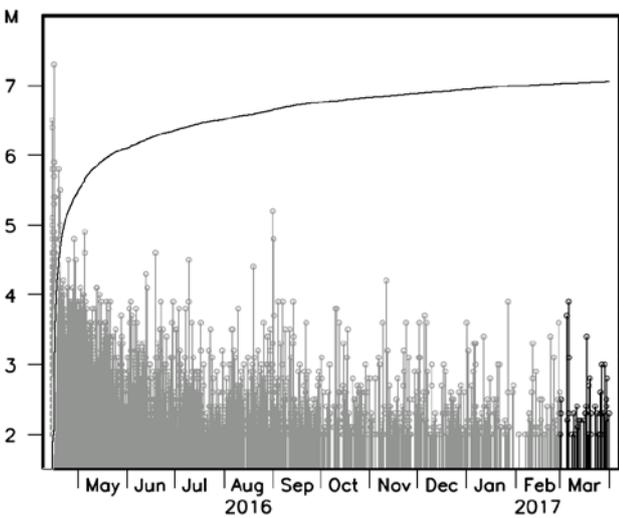
領域 a 内の時空間分布図 (A-B 投影)  
(2016 年 4 月 14 日 21 時~2017 年 3 月 31 日)



領域 a1, a2, a3 内の M-T 図及び回数積算図  
(2016 年 4 月 14 日 21 時~2017 年 3 月 31 日)

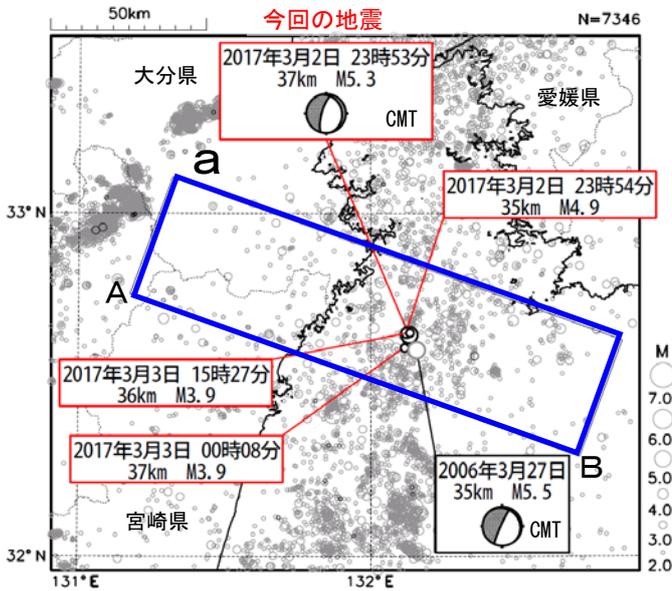


領域 a 内の M-T 図及び回数積算図



# 3月2日 日向灘の地震

震央分布図  
(1997年10月1日～2017年3月31日、  
深さ0～90km、 $M \geq 2.0$ )  
2017年3月の地震を濃く表示

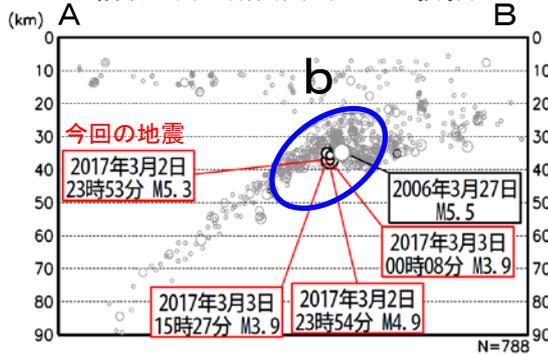


2017年3月2日23時53分に日向灘の深さ37kmで $M 5.3$ の地震（最大震度4）が発生した。この地震は、発震機構（CMT解）が東西方向に張力軸を持つ正断層型で、フィリピン海プレート内部で発生した。また、ほぼ同じ場所で同日23時54分に $M 4.9$ の地震が発生したほか、翌3日にも最大震度1以上を観測した地震が2回発生した。

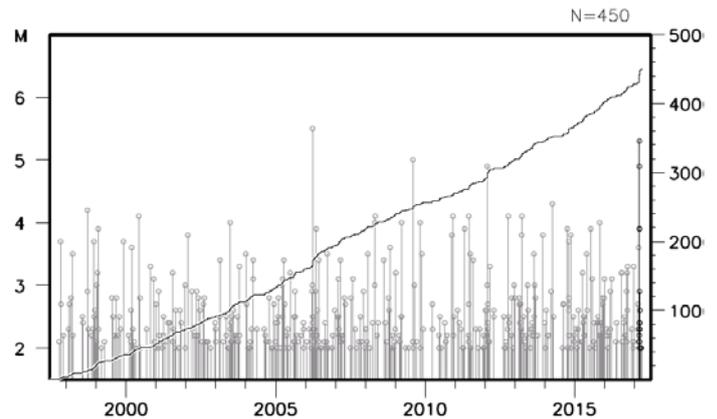
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、 $M 4.0$ 以上の地震が時々発生するなど地震活動が活発な領域である。

1923年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、 $M 6.0$ 以上の地震が時々発生している。「1968年日向灘地震」（ $M 7.5$ 、最大震度5）では、負傷者57人、住家被害7,423棟などの被害が生じた（「日本被害地震総覧」による）。また、この地震により大分県蒲江で240cm（最大全振幅）の津波を観測した（「日本被害津波総覧」による）。

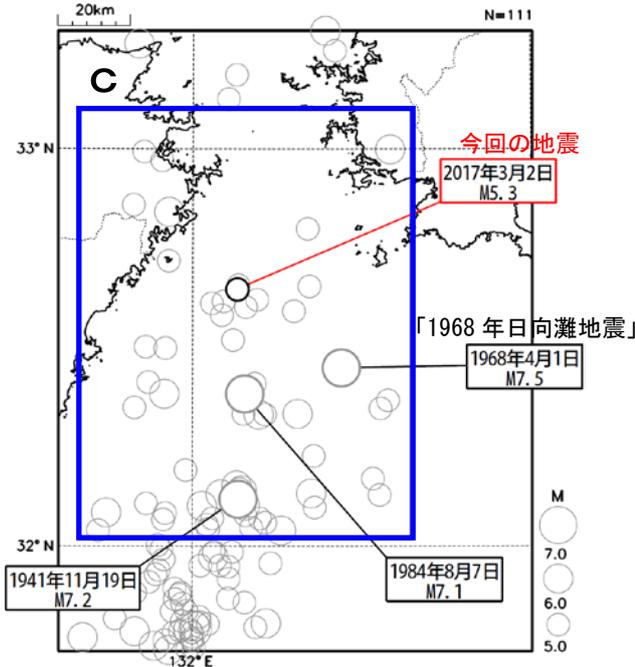
領域a内の断面図（A-B投影）



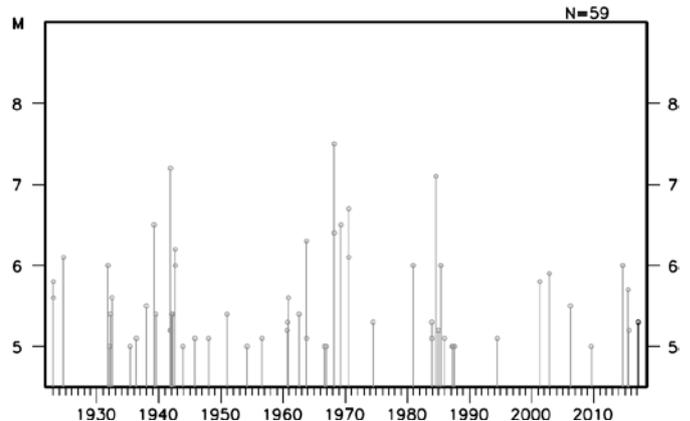
領域b内のM-T図及び回数積算図



震央分布図  
(1923年1月1日～2017年3月31日、  
深さ0～90km、 $M \geq 5.0$ )



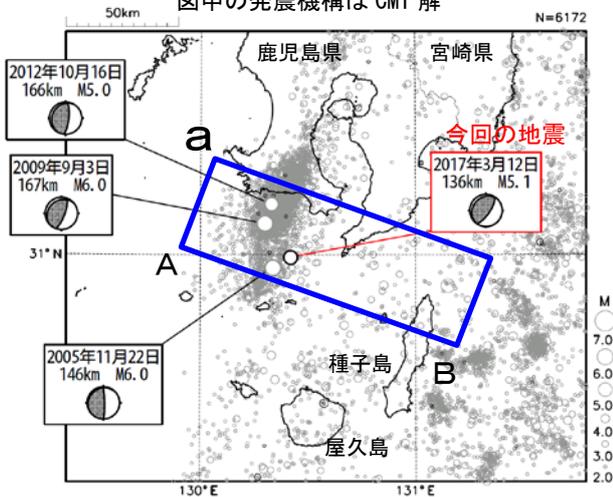
領域c内のM-T図



# 3月12日 種子島近海の地震

この地震の情報発表に用いた震央地名は「薩摩半島西方沖」である。

震央分布図  
(1997年10月1日～2017年3月31日、  
深さ30～200km、 $M \geq 2.0$ )  
2017年3月の地震を濃く表示  
図中の発震機構はCMT解

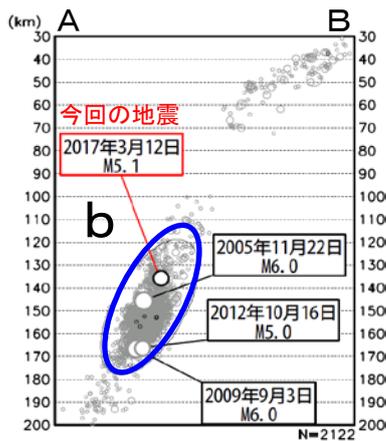


2017年3月12日03時48分に種子島近海の深さ136kmでM5.1の地震（最大震度3）が発生した。この地震は、フィリピン海プレート内部で発生した。発震機構（CMT解）はフィリピン海プレートの沈み込む方向に張力軸を持つ型である。

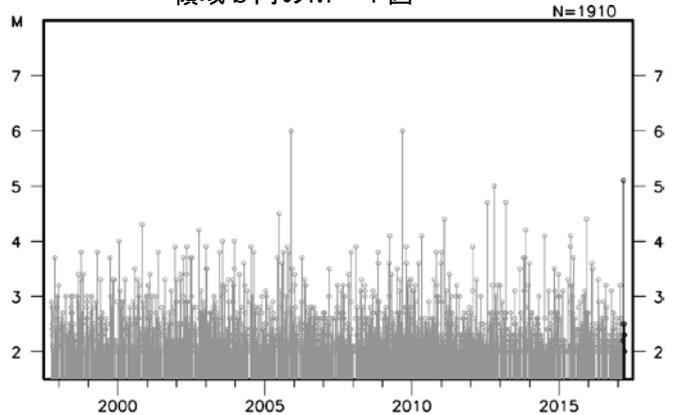
1997年10月以降の活動をみると、今回の地震の震源付近（領域b）では、M5.0以上の地震が4回発生している。2009年9月3日にはM6.0の地震が発生し、最大震度4を観測した。

1950年1月以降の活動をみると、今回の地震の震央周辺（領域c）では、M6.0以上の地震が4回発生している。1978年5月23日にはM6.4の地震が発生し、最大震度4を観測した。

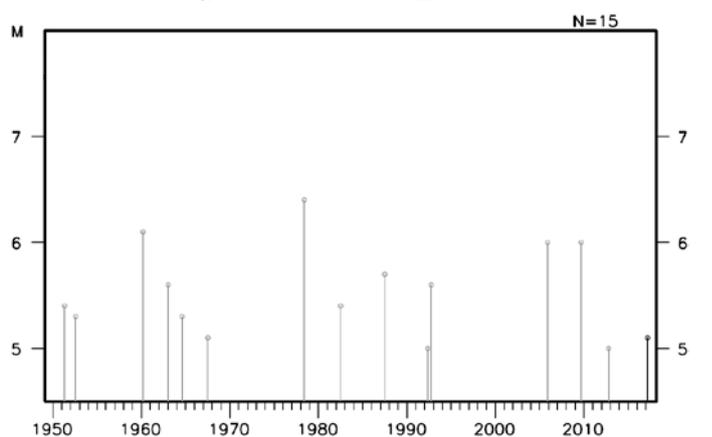
領域a内の断面図（A-B投影）



領域b内のM-T図



領域c内のM-T図



震央分布図  
(1950年1月1日～2017年3月31日、  
深さ30～200km、 $M \geq 5.0$ )

